

平成 24 年度

青少年を取り巻く有害環境対策の推進
(有害環境から子どもを守るための推進体制の整備)

【ケータイモラルキャラバン隊】

成果報告書

平成 25 年 3 月

文部科学省 スポーツ・青少年局
受託：株式会社情報通信総合研究所

本報告書は、文部科学省のスポーツ・青少年局青少年課及び参事官委託費に寄る委託事業として、株式会社情報通信総合研究所が実施した平成 24 年度「青少年を取り巻く有害環境対策の推進（有害環境から子どもを守るための推進体制の整備）【ケータイモラルキャラバン隊】」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

目次

1	ケータイモラルキャラバン隊 実施概要.....	1
1.1	事業の背景と目的	1
1.2	事業内容	2
1.3	実施体制	6
2	シンポジウム開催状況.....	7
2.1	第1回 ～鹿児島県鹿児島市～	7
2.2	第2回 ～宮城県仙台市～	12
2.3	第3回 ～石川県金沢市～	17
2.4	第4回 ～北海道札幌市～	21
2.5	第5回 ～兵庫県姫路市～	25
2.6	第6回 ～福岡県北九州市～	30
3	運営委員会開催記録	35
3.1	第1回運営委員会	35
3.2	第2回運営委員会	37
4	ケータイモラルキャラバン隊 来場者アンケート結果.....	41
4.1	アンケート調査概要.....	41
4.2	アンケート調査結果.....	42
4.3	アンケート調査結果から分かったこと	66
5	今後に向けて	69
5.1	保護者・教育関係者への意識啓発の重要性	69
5.2	地域における旗振り役の育成と幅広い啓発活動の推進	69
5.3	ニーズに応える情報提供	70
5.4	より効果的なケータイモラルキャラバン隊の開催に向けて	70
参考資料 1	ケータイモラルキャラバン隊 シンポジウムチラシ	75
参考資料 2	アンケート調査票.....	83
参考資料 3	アンケート自由記述（全回答）	87

1 ケータイモラルキャラバン隊 実施概要

1.1 事業の背景と目的

昨今、青少年の生活において携帯電話やスマートフォン(以下、スマホ)が存在感を増している。平成 24 年 4 月に行われた文部科学省による調査でも、小学 6 年生の約 36%、中学 3 年生の約 63%が携帯電話やスマホを持っているとの結果が出ている(文部科学省「平成 24 年度全国学力・学習状況調査」)。

携帯電話・スマホは、便利で快適な生活をもたらす一方で、モバイル性やパーソナル性の高さから保護者等の大人の目が届きにくくなりがちなツールといえる。そのため、違法・有害情報サイトや SNS 等のコミュニケーションサイトへアクセスした青少年がトラブルに巻き込まれるといった事件が後を絶たず、大きな社会問題となっている。また、SNS 等を使った情報発信では、青少年自らが加害者となる危険性も指摘される。

それに対し、携帯電話事業者による有害情報のフィルタリング、一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構(以下、EMA)によるモバイルサイトの審査・認定など、様々な対策が講じられており、一定の成果を上げてきた。しかし、ここ数年で爆発的に普及しているスマホは、携帯電話事業者の管理下でメール環境やアプリケーションが提供されていた従来型の携帯電話と異なり、利用制限をかけることが非常に難しい。

徐々に、携帯電話事業者を始めとする民間事業者の対策も進みつつあるが、ハード的な対策だけでトラブルのすべてを防ぎきれないといった状況が起こっている。

ハード的な対策と両輪となって行うべきソフト的な対策については、インターネットを適切に利用する知識を持ち、青少年を導くことができる保護者や教員の存在が重要である。しかし、文部科学省の調査によると、「最新の技術動向が分からない」と不安を持っている保護者が 4 割を超えている。(文部科学省「平成 23 年度 青少年を取り巻く有害環境対策の推進【青少年の通信機器利用のあり方に関する調査】」)。

このような状況を踏まえ、青少年が安全・安心にインターネットを利用するために、保護者・教育関係者等が青少年の置かれた現状と問題点を正しく理解し必要な行動を実践するように、意識啓発を目的としてケータイモラルキャラバン隊を実施した。

図表 1-1-1 情報モラル教育に対する保護者の不安(%)

設問	大変 そう思う	そう思う	余りそう 思わない	そう 思わない	わからな い
最新の技術動向が分からない	9.4	43.4	30.3	12.4	4.5
法律で定められている保護者の義務や 責務などを十分に理解していない	5.4	44.1	34.5	11.3	4.8
家庭でのルール作りがうまくできない	2.7	19.4	43.2	31.7	3.0
子どもにとってインターネットを取り巻く どのような危険があるのか分からない	4.2	23.1	38.6	31.1	3.0

資料出所：文部科学省「平成 23 年度 青少年を取り巻く有害環境対策の推進【青少年の通信機器利用のあり方に関する調査】」

1.2 事業内容

1.2.1 シンポジウムの実施

(1) 開催場所、時期

全国 6 か所で、保護者、教育関係者を対象に、青少年への情報モラル教育の啓発に向けた半日のシンポジウムを開催した。

図表 1-2-1 シンポジウムの開催状況

	開催地	開催日時	会場	参加者数
第 1 回	鹿児島県鹿児島市	H25.1.20 (日) 13:30~16:10	南日本新聞会館 みなみホール	約 130 名
第 2 回	宮城県仙台市	H25.1.28(月) 13:30~16:10	仙台イズミティ 21 小ホール	約 200 名
第 3 回	石川県金沢市	H25.2.2 (土) 13:30~16:10	地場産業振興センター コンベンションホール	約 230 名
第 4 回	北海道札幌市	H25.2.6 (水) 13:00~15:40	札幌市生涯学習センター ちえりあ 1F ホール	約 260 名
第 5 回	兵庫県姫路市	H25.2.23 (土) 13:30~16:10	姫路市文化センター 小ホール	約 200 名
第 6 回	福岡県北九州市	H25.3.2 (土) 10:00~12:30	黒崎ひびしんホール 中ホール	約 160 名

(2) シンポジウムの内容

始めに文部科学省・総務省から、昨今普及が著しいスマホの特徴や危険性といった技術動向、青少年の携帯電話・スマホの利用実態やトラブルの実態を説明し、それに対する各省庁の取組を紹介。

それらを踏まえた上で、今後保護者・教育関係者としてどのように青少年に向き合うべきかといった理解を深めるよう、有識者による講演を行った。

更に、シンポジウム後半ではパネルディスカッション又は会場トークセッションを取り入れ、有識者、教育委員会(教育関係者)、PTA(保護者)の立場から様々な意見を交換した。

図表 1-2-2 シンポジウムのプログラム構成 ～第1回 鹿児島会場～

1.挨拶
外城戸 昭一 (鹿児島県 PTA 連合会 会長)
2.文部科学省説明
「ケータイモラル、情報等に関する小学校、中学校での取り組み」 川又 竹男 (文部科学省 スポーツ・青少年局 青少年課長)
3.総務省説明
「スマートフォン等の安心・安全な利用環境の整備に向けた取り組み」 武永 次男 (総務省 九州総合通信局 情報通信部 電気通信事業課長)
4.講演
「情報社会を健やかに生きる子どもを育むために～見守る側としてできること、知っておきたいこと～」 尾花 紀子 (ネット教育アナリスト)
5.パネルディスカッション
「子どもたちが情報社会に向き合うために、大人がやるべきこと」 パネリスト : 尾花 紀子 (ネット教育アナリスト) 川又 竹男 (文部科学省 スポーツ・青少年局 青少年課長) 中西 昭郎 (鹿児島市立甲南中学校 校長) 新原 市郎 (鹿児島県 PTA 連合会 副会長) コーディネーター : 曾我 邦彦 (社団法人 日本 PTA 全国協議会 元会長)

1.2.2 運営委員会の開催

(1) 開催内容、時期

シンポジウム開催に当たっての指導・助言を求め、有識者等による運営委員会を組織した。シンポジウム開催前に開催した第1回運営委員会では、本年度事業の実施方針・評価方針を協議した。シンポジウム開催後に開催した第2回運営委員会では、本年度の実績報告を行い、来場者からのアンケート結果を基に、今後解決すべき課題を協議し、報告書としてとりまとめた。

図表 1-2-3 委員会開催状況

	開催日時	議題
第1回	H24.10.3(水) 10:00~12:00	i. 各委員の活動実績紹介 ii. 文部科学省「平成23年度 青少年を取り巻く有害環境対策の推進 青少年の通信機器利用のあり方に関する調査研究」の報告 iii. 平成24年度ケータイモラルキャラバン隊 実施方針 iv. 平成24年度ケータイモラルキャラバン隊 評価方法
第2回	H25.3.7(木) 13:00~15:00	i. 平成24年度ケータイモラルキャラバン隊 全体報告 ii. ディスカッション

(2) 運営委員会参加者

PTA 関係者、有識者、民間事業者等を委員として、文部科学省参加の下、委員会を開催した。また、全国各地域で行政・PTA・事業者等の関係機関による連携体制づくりを進めている総務省がオブザーバーとして参加し、省庁間での連携協力の促進を図った。

図表 1-2-4 運営委員会参加者

	氏名	所属	役職等
委員長	曾我 邦彦	社団法人 日本 PTA 全国協議会	元会長
副委員長	尾花 紀子	ネット教育アナリスト	
委員	石原 友信	一般社団法人 安心ネットづくり促進協議会	事務局次長
	井上 真由美	株式会社ミクシィ ユーザーサービス本部 CS 推進部 企画グループ 渉外チーム	
	小向 太郎	早稲田大学大学院 国際情報通信研究科	客員准教授
		株式会社情報通信総合研究所	主席研究員
総務省 (オブザーバー)	鎌田 俊介	総務省 総合通信基盤局	課長補佐
	藪下 裕介	電気通信事業部 消費者行政課	
文部科学省	川又 竹男	スポーツ・青少年局 青少年課	課長
	関根 章文	スポーツ・青少年局 参事官（青少年健全育成担当）付	青少年有害環境対策専門官（併）青少年課課長補佐
	野村 哲也		
事務局	田川 久和	株式会社情報通信総合研究所 社会公共システム研究グループ	取締役
	三浦 大典		主任研究員
	松原 徳和		副主任研究員
	田中 裕美		副主任研究員
	沼田 真奈		副主任研究員

1.3 実施体制

ケータイモラルキャラバン隊運営委員会の指導・助言の下、株式会社情報通信総合研究所（以下、情報通信総合研究所）が事務局を務め、有識者、総務省、一般社団法人安心ネットづくり促進協議会（以下、安心ネットづくり促進協議会）、開催地区のPTAとの連携により、ケータイモラルキャラバン隊を実施した。

図表 1-3-1 シンポジウム実施体制

